

ボリンジャーバンドとは

ボリンジャーバンドは、統計学を利用し、移動平均線の上側に $+1\sigma$ 、 $+2\sigma$ 、下側に -1σ 、 -2σ の線を表示した指標となります。【 σ （シグマ）：標準偏差】



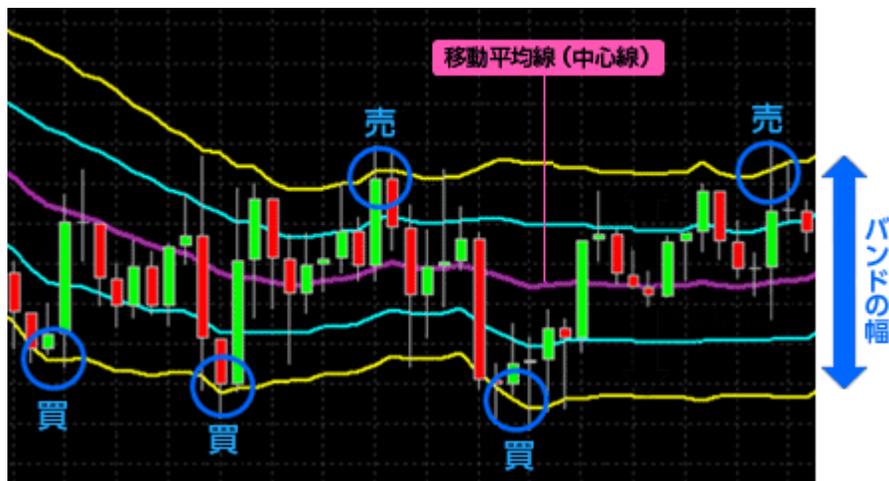
- ◎ -1σ から $+1\sigma$ に価格が収まる確率は68.3% = 超える確率 31.7% (※統計学上)
- ◎ -2σ から $+2\sigma$ に価格が収まる確率は95.5% = 超える確率 4.5% (※統計学上)

逆張りで利用する

以下の図を見ると、青い円の部分で価格が $\pm 2\sigma$ をはみ出ていますが、その後 $\pm 2\sigma$ のバンド内に戻っています。

$\pm 2\sigma$ の間に価格が収まる確率は95.5%なので、 $\pm 2\sigma$ の外側に価格がはみ出した場合に、 $\pm 2\sigma$ の内側に価格が戻ると考えて逆張りする手法があります。

この手法は、相場に方向感がない場合に利用する手法となり、トレンドが出ている場面や、トレンドが出たときには通用しないことがあります。方向感のない相場の特徴は以下になります。



- ◎ 移動平均線（中心線）の傾きがほとんどない状態（もみ合い相場）
- ◎ バンドの幅がほぼ同じ幅で安定している

ボラティリティー・ブレイクアウト

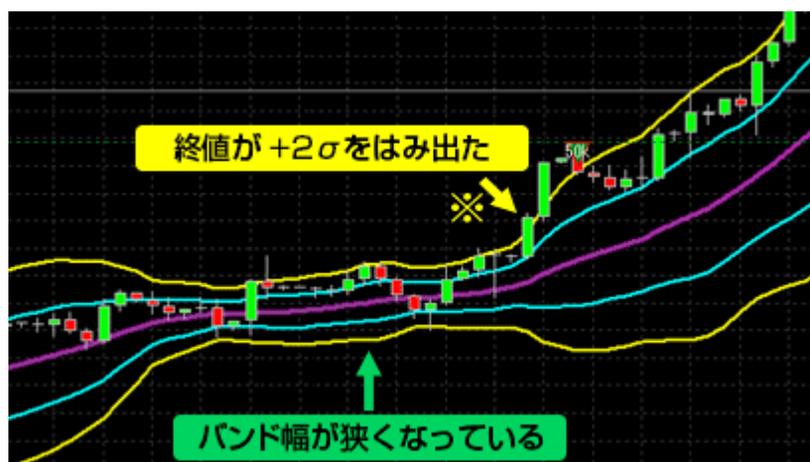
ボリンジャーバンドには以下の特徴があります。

- ◎ 価格の変動幅があまりないとき → バンドの幅が狭い
- ◎ 価格の変動幅が大きいとき → バンドの幅が広い

バンドの幅がくびれて狭くなり、そこから急激に広がっている場合は、変動幅が大きくなるサインとなります。

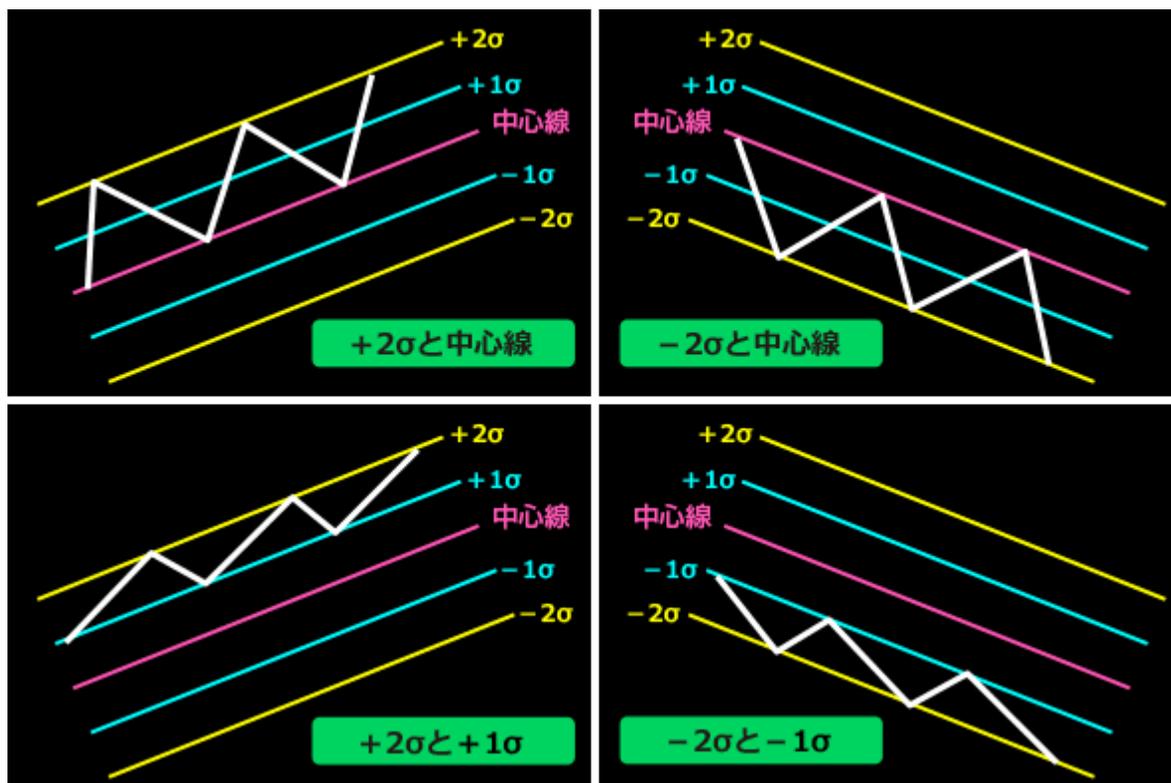
利用方法は、バンドの幅が狭くなってきたら注目し、ローソク足の終値が $\pm 2\sigma$ をはみ出たときにはみ出た方向に順張りでついていきます。

下のチャートの場合は※印の、終値が $+2\sigma$ をはみ出たときに買いということになります。



バンドウォーク

バンドウォークはトレンドが出ている（中心線の傾きが強い状態）ときに利用する手法です。トレンドが出ているときに、 $+2\sigma$ と中心線、 -2σ と中心線、または、 $+2\sigma$ と $+1\sigma$ 、 -2σ と -1σ の間で上下に価格が変動しながら上昇、または下降していきることがあります。



例えば、下のチャートの場合は、中心線と $+2\sigma$ の間で価格が推移しながら上昇しています。この場合は、中心線が下値を支えているので、サポートとなり、 $+2\sigma$ が上値の抵抗となっているので、レジスタンスとなります。

つまり、下のチャートのAは買いポイントとなります。また、トレンドの終了のサインは、以下のような場合になります。

- ◎ サポートラインを割り込んだとき・・・以下図 B
- ◎ レジスタンスラインが変わったとき・・・以下図 C

下の図では、今までサポートラインとなっていた中心線を割り込んで終わっているBや、レジスタンスが+2σから+1σに変わっているCが、トレンド終了のサインとなります。

